

廃校使い 佐渡活性化めざす

佐渡市の廃校になった小学校を活用して地域活性化を目指す。2014年から始めた「学校蔵プロジェクト」

はばたく新潟 時の人



尾畑酒造専務

尾畑 留美子氏

酒造り通じ学びの場提供

トを切り盛りする尾畑酒造と環境という4本の柱から（佐渡市）の尾畑留美子専務に現状や取り組みの狙いを聞いた。

「学校蔵プロジェクトを始め、酒蔵プロジェクトを始めたきっかけは何でしょうか。」

「10年に旧西三川小学校者が酒造りを体験できる取

「今年からは一般の希望者が酒造りを体験できる取

「一方的にゲストが話す

「地域と世界が結びつい

「来年は6月」

「学校蔵プロジェクトは酒造りと学びに加え、交流

「定期的なワークショップも開いています。」

「積極的意見が出てくる授

「お酒を通じて

「廃校になったのがきっかけ。日本で一番夕日がきれいな小学校をなんとか存続しようということから始まった。廃校を酒蔵にして酒造りを通じて、学びの場を提供しようと考えた。」

「特別授業として14年から1回開いている。佐渡と多様性」

「将来は学校蔵プロジェクトをどのようにつなげていきたいですか。」

「来年は6月に『佐渡から考える日本の未来』や『島住むことはプラスになる。実際に学校蔵を通じて佐渡の良さを感じて、佐渡に定期的に始めるようになった人がいたり、事業を始めようとする人が出始めるなど成果が生ま

り組みも始めた。6〜8月の間に一週間ほど酒蔵に通ってもらい、洗米から仕込みまで酒造りの流れを体験できる。今年には日本酒専門飲食店、方舟の運営会社などが酒造りに参加した。米国やアジアなどからも問い合わせが来るなど国内外で関心が高まっている。」

「佐渡市の人口40年に4割減」

「定するなど対応を急ぐ。地域への流入人口を増やし、地域活性化につなげるのは地方自治体にとって共通の課題だ。廃校を酒蔵として活用し、地域活性化を目指す学校蔵の取り組みは人口減に悩む他の自治体にとっても参考になりそう

新潟

新潟支局 0255-2222-175047
長岡支局 02558-137-11000